

令和 6 年 5 月 21 日

保護者各位

学校法人法城学園  
理事長 三芳弘道

令和 5 年度教職員自己評価ならびに  
学校関係者評価についてのご報告

保護者の皆さまには常日頃より幼稚園教育にご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さて、表題の件につきまして当園では「学校関係者評価委員会」を設置し、真の子どもの幸せを願い地域に根差した幼稚園運営を目指して園内の制度整備に取り組んでいるところです。

毎年年度末に行っている「教職員自己評価」の結果内容を「学校関係者評価委員会」にお諮りし、ご意見をいただく中で、教育の質と運営面の向上に役立てていくという目的です。

ちなみに委員会を構成していただく方は、以前の卒園生で地域代表の方 1 名、学識経験者として子育て相談室の小峰節子先生、保護者会役員代表として会長、副会長の 3 名、そして園側から園長並びに主任教諭の 7 名で組織し、「学校関係者評価委員会設置規則」にしたがって開催されます。

本紙面では、教職員自己評価をまとめたものと先般開かれた学校関係者評価委員会での評価シートをご報告させていただきます。参考としてご覧いただき、当園の教育活動についてさらにご理解を深めていただき、お気づきの点のご意見ご質問等を賜れば有難いです。

▼ 教職員自己評価(令和 5 年度分)

【具体的な重点目標や計画】

課 題	具体的な取り組み方法
①保育の 計画性	保育者はあらかじめ子どもの発達に必要な経験を見通し、発達の特性を踏まえながら教育課程に基づいて立案 → 発達の見通しや活動の予想に基づいて環境を構成する → クラス毎、学年毎により一人ひとりの発達を見通して援助
②主体性を 育む保育	子どもの自発的な活動としての遊びや主体的な生活態度を生み出すために必要な教育環境はどんなものか?…活動の場面に応じて保育者の役割を具体的に考察し、遊びが展開・発展したり子どもの意見や提案が取り上げられて周囲に役立つ環境の創造につなげていけるように保育者同士で共有していく
③保育の 理解を深める	子ども一人ひとりが伸びようとする芽をもっているため、その芽を見落とさず的確に捉えるためには幼児を理解することが必要(3 点) → 子どもの姿の観察・共鳴共感を通して成長を記録 → 一般論としての「子ども理解」「発達の特性」 → 園の理念を理解、精通し保育の専門性を高める

【評価項目の取組及び達成状況】

評価項目	結果	結果の理由
① 保育の計画性	B	<p>今年度も教育課程に基づき、学年のカリキュラム・クラスごとの週案を計画し保育を進めてきました。こちらについては殆どの保育者が達成出来たと回答しています。今年度は年間を通して、行事に向かって練習を重ねていく「行事の為の保育」ではなく日常の保育を行事に繋げたり、季節に触れる中で興味や関心、学びの力を育てる事を意識して計画し保育を展開してきました。実際に先日の発表会では1年間の園生活を通して子ども達が興味を持ち取り組んだ活動を題材とし行いました。これは、子ども達にとって経験した事が発表に繋がってくるので、親しみ易く自発的な活動となりました。</p> <p>以前は余裕を持った保育を心掛けたつもりでしたが、行事の時期は時間に追われてしまった、または保育者自身の余裕がなくなって遊びの時間を確保することが出来なかったなどの反省がありました。少しずつ改善されてきたようです。</p> <p>また保育計画は、一年間の成長を見据えて、その年ごとに子ども達の実態をよく捉え、子どもの主体性を考慮した指導計画、一人一人の個性や発達状態を見て、その子どもにあった指導計画を考える必要があります、この事は今年度の目標②主体性を育む保育③保育の理解を深める と繋がってきます。時に応じてその日の計画はずれ、子どもの「やりたい」や興味にとことん付き合うことがその後の活動の幅を広げていくことに繋がっていくことになるので、計画といえども柔軟に対応する必要があります。今後も振り返りを大切に、継続性のある計画を考えていきたいと思えます。</p>
② 主体性を育む保育	B	<p>昨年度から導入したみんなの日(一日自由保育)を通し、保育者が提案または用意した遊びや活動だけではなく、身近な環境を子ども自らの思いや考えで自由に活用し、主体的に遊びを楽しむ姿を大切にしてきました。保育者も子どもの主体性を意識し、日常の保育の中でも話し合いの場を設け、ちょっとした事でも子ども自身に選ばせたり決めさせたりと自分で判断したり自分の意見を述べる経験を重ねたことで何かにチャレンジしたり、子ども達同士で問題を解決しようと取り組んだりする姿も見られるようになってきました。勿論、発達を捉えた保育者の願いが土台になるので、年齢に合った、またはその子に合った適切な環境を与えることが前提となります。保育者が子どもの好奇心を育てる問いかけをすることや子どものチャレンジ心を温かく見守り必要に応じた援助を心掛けることで主体性を育む活動へと繋がって行くことを常に意識し保育にあたる必要があります。</p>
③ 保育の理解を深める	B	<p>子ども一人ひとりが持つ芽を伸ばすには、子どもを理解することが重要です。年齢に応じた発達段階の把握、その子を取り巻く環境、発達の特長、性格などその方法は様々です。クラス担任と副担任だけでなく、加配教諭においても支援センターとの連携を図り、個の理解を深めてきましたが、全体的には自己評価の結果からも見えるように、子どもをいかに多方面からみられるかは保育者としての経験年数や保育者自身の年齢によって差があったようです。また、ひとりの保育者だけでは見方が偏る事もありますのでクラス、学年を超えての情報共有も大切と言えます。まだまだ1人ひとりの保育者が子どもの見ている先と一緒に見ること、子どもの気持ちに共感し、育ちを捉えることが必要です。常に「子どもを信じ、肯定的にみる」という視点を養い保育者として丁寧に関わること、適宜記録に取めながら個の理解を共有し保育を実践していく事を心掛けていかなければなりません。</p> <p>取り組みとしては毎月の教員研修会の中で同学年や世代別などに分かれグループディスカッションを進めることで保育についてある程度の共通理解が図られたものの子どもの育ちを捉え理解するという意味では少々バラツキがありました。また、今年度特に課題だったパート職員の研修参加については、保護者の協力を得て月いちで13時降園を実施したことにより参加しやすい環境づくりができたことは今後も継続していきたい点です。</p>

- 関連園内研修 6/21 保育者の食事支援について  
 7/19 子どもの姿の観察・共鳴共感を通して成長を記録  
 一般論としての「子ども理解」「発達特性」  
 園の理念を理解・精通し、保育の専門性を高める  
 10/18 保育の質を高めるということ

【具体的な目標や計画の総合的な評価結果】

結果	理由
B	<p>令和5年度は保育の中身について深く研鑽を積むことに重点を置いてまいりました。結果的には、考えれば考えるほどに「保育」の奥深さを知り、教員の自己評価も謙虚？気味だった感じがします。自身の保育の理想と現実に差を感じている保育者もいたかもしれません。やはり保育はキャリアの差も大きいですが、一人ひとりの子どもの姿をいかに多角的にみる力があるかがポイントです。自分のクラスのことはよくわかっているつもりでも他の保育者からみれば捉え方に違いがあるのは当然のことです。だからこそ保育者間の話し合いや普段のコミュニケーションの中で、クラスを越えて様々な子どもの様子を情報交換したり、ベテラン教諭の考えを聞いたりすることで子ども理解が図られます。</p> <p>幸い、子どものことで気軽に話す機会が増え、それが定着してきてあちこちでその姿を見かけることが多くなりました。以前のようにあまり行事に追われすぎないことも一因だと思います。普段の外遊び、縦割り保育、みんなの日やパスの添乗など受け持ち以外の子ども達に接する機会が多いことも背景にあるので、保育者にとっては大変な面もありますがワンチームとして全体を見る力を養っていきたいと思います。</p> <p>ただ話題の中心は気になる子や手がかかる子になりがちですので、広く深く視点を当てていくことも保育者の大切なスキルです。幼稚園時代は何の心配もいらなかった子が、小学校に行ったら手がかかってしまう事例もあります。家庭とよく連携をしながら園の理念でもある「どの子にも愛情を」を徹底していかなければならないでしょう。</p>

※結果評価

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

今後取り組むべき課題(令和6年度分)

課 題	具体的な取り組み方法
① 職員間の情報共有	・園全体の子どもをみんなで理解する ・多角的に子どもを見るための情報交換
② 主体性を育む保育	・子どもの「やってみたい、楽しい」を引き出すために ・日常の中で子どもに考えさせる保育を展開するために
③ 保育の質の向上	・子ども達のやってみたいを共有し、実現させるための援助を学ぶ ・保育の見せ合いと振り返りで互いの向上を図る

「みんなの日」年間を通した成長目標

- ・保育者から十分に認められ、「自分」を確立できた上で周囲(友だち)を認めていく
- ・自分の意思で自由に活動する楽しさを味わう
- ・何がしたいのか、して欲しいのかを相手に伝える

## 学校評価シート（学校関係者評価）

幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和6年5月20日

11:00 ~ 12:30

出席者 評価委員 7人

評価委員 人

### 1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

コロナ感染下での、4年中の重点目標、①保育中危機管理②職員間の連携・情報共有③遊びの中での保育の工夫、のもとで行ってきた園の活動などを参考に、令和5年度は、子供に寄り添い子供が自分で考え、判断できることを目指して①保育の計画性②主体性を育む保育③保育の理解を深める、を挙げており、目標、評価項目は適切に設定されていた。

### 2. 評価結果の内容は適切であったか

重点目標ごとの評価結果は、①については、カリキュラム週計画案は達成できた。また、発表会において、年間を通して取り組んできた活動を題材に発表できた。なお、行事時期の繁忙さについては少々改善できた。②については、自らチャレンジする姿勢や、子供達同士で問題を解決する姿勢が見られた。③については、教員研修会などでグループディスカッションするなどにより共通理解図られていた。計画目標は達成されており、評価を見ても結果の内容は適切であった。

### 3. 今後取り組む課題は適切に設定されているか

5年度の学校評価、教職員自己評価を参考に、6年度取り組むべき課題を①職員間の情報共有②主体性を育む保育③保育の質の向上、とし、園全体の子供を理解、子供の「やってみたい、楽しい」を引き出す、保育の見せ合いなど、具体的に取組むとし、適切に設定されている。

### 4. 今後取り組む課題は適切に設定に行われているか

6年度の3課題とその具体的な取組みについて、始動したばかりであるが順調に進められている。

令和5年度 みよしの幼稚園 教職員自己評価点検表 集計結果

自己評価 A～D のいずれかに○をつけて下さい

A…十分に達成されている

B…ほぼ達成されている

C…重要な点で成果が上がっていない

D…全体として成果が上がっていない

※教諭以外はその立場上の業務運営について、大意を解釈しながら評価のこと。

[評価項目]

数字：%

1. 教育理念	A	B	C	D
・園の教育方針を理解している	36	61	4	0
・幼稚園教育要領の特性を理解している	19	78	4	0

2. 保育の計画性	A	B	C	D
・発達の特徴を踏まえながら教育課程に基づき、指導計画・月案・週案を計画し、保育を展開している	5	82	14	0
・指導計画は、常に見直しを行ない、子どもの発達・クラスの幼児の実態などをもとに考え作成している	9	77	14	0
・指導計画は、子どもの主体性を尊重し作成されている	23	68	9	0
・自分なりに標記の仕方を工夫し課題をもった内容になるように努力している	13	83	4	0

3. 保育の実践	A	B	C	D
・5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえて保育を実践している	28	72	0	0
・一人ひとりの子どもをよく観察している	40	56	4	0
・子どもの話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めようとしている	58	42	0	0
・子ども自身に考えさせたり意思を尊重するために適切な発問や環境設定がなされている	19	73	8	0
・子ども同士のトラブルに対し、適切な対応をしている	40	52	8	0
・子どもの人権を無視したり、体罰を加えるようなことはどんな場合でもしていない	88	12	0	0
・子どもを自分の一方的な感じ方や捉え方で決めつけないようにしている	65	35	0	0
・子どもの姿を多面的に捉えることができる	27	64	12	0
・子どもについて常に教師同士で話し合い、クラス、学年を超えて情報交換する機会がある	24	64	12	0
・互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え保育向上につなげている	5	29	57	10
・独断で行動せず、事前相談、事後報告をしている	65	35	0	0
・クラスの運営や子どもの生活または育ちを適切に記録している	9	82	9	0
・クラスの実態を踏まえ、新たな保育内容にチャレンジまたは模索している	30	40	30	0
・身の清潔・衛生や食事のマナーなどを含めた基本的な生活習慣について保育者間で共通理解をして具体的に指導している	38	58	4	0
・危険が予測される場合には、子ども達と一緒に見たり考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている	38	58	4	0
・失敗や反省を踏まえ、次の日の保育に生かす工夫をしている	46	50	4	0
4. 学級経営	A	B	C	D
・保育室内の整理整頓を心がけ、清潔に管理されている	48	36	16	0

・子どもの動線を考え、安全に配慮した環境になっている	44	48	8	0
・出席簿、週日案等は毎日正確に記入している	32	50	18	0
・配布物、手紙等はすぐに目を通し適切に対応している	50	50	0	0
・保護者からの提出物、現金など注意深く管理している	78	22	0	0
・保育室内の換気、室温、湿度などに気をつけている	52	48	0	0

<b>5. 保育能力向上</b>	A	B	C	D
・自分の保育の課題点を理解している	27	69	4	0
・自分の課題改善策に何が必要かを理解し、目標化している	19	73	8	0
・園の理念を理解し、自らの保育の質を高めようとしている	31	65	4	0

<b>6. 保護者とのかかわり</b>	A	B	C	D
・子どもの変化や出来事、日常の様子をできる限り保護者に伝えている	20	80	0	0
・保護者からの依頼や質問、相談などには適切に対応している	50	46	4	0
・家庭との連携が不可欠であることを認識し、保護者との情報交換に努めている	38	62	0	0
・保護者からの意見、要望については安易に受けたり、断ったりせず、上司に報告・相談をしている	88	12	0	0
・個々の子どもや保護者、家族の情報は口外していない	93	7	0	0
・保護者との接し方は平等になるよう心掛けている	74	26	0	0
・保護者に対して節度をもって丁寧な言葉で話している	74	26	0	0
・園に関することについて、みだりにまたは不確かな理解のままに保護者へ話したりしていない	81	19	0	0
・すべての保護者に対し、挨拶や礼節を心掛けている	82	14	4	0
・クレームに対して誠意をもって迅速に対応している	69	31	0	0
・適切な判断が求められる場合などは、上司に相談・報告している	85	15	0	0

<b>7. 安全・衛生管理</b>	A	B	C	D
・園内に危険な物、壊れた物はないか常に観察し、発見次第報告している	64	32	4	0
・園内での火災、災害、事故、事件などの危機に関して、その対応を理解している	50	43	7	0
・消火器、非常ブザー、救命機器などの位置を把握し、使い方を理解している	21	61	18	0
・飲食物、アレルギー食の保管や配膳には十分配慮している	83	17	0	0
・救急薬品、清掃用薬品の保管、取り扱いには十分配慮している	67	33	0	0
・事故やケガがあった時は迅速かつ適切に責任をもって対応している	68	32	0	0
・事故やケガの状況や原因を把握し、上司、保護者に報告している	75	25	0	0
・事故やケガについては記録している	35	50	12	4
・常に人員確認には気をつけている	61	39	0	0
・相応の危機管理意識を持っていると思う	43	57	0	0

<b>8. 子育て支援</b>	A	B	C	D
・子育てに悩んでいる保護者の心情を理解し、寄り添うことができる	33	54	13	0

<b>9. 期待される望ましい保育者像</b>	A	B	C	D
・クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている	60	36	4	0

・幼稚園教諭として専門知識や技能を身につけようと努めている	29	71	0	0
・子どもの性格や個性を把握するよう努め、保護者とコミュニケーションがとれる	32	64	4	0
・仕事の手順を考え、優先順位を見極め能率よく行っている	20	72	8	0
・何かしてもらったら感謝の気持ちを言葉などで表している	77	23	0	0
・クラス全体の動きを常に把握している	21	75	4	0
・保育時間外でも保育者としての誇りと自覚をもった言動を心掛けている	44	56	0	0
・ <b>その場に適した言動をとることができる</b>	38	58	45	0
・服装、髪型、身だしなみなど、清潔感あるものを心掛けている	52	48	0	0
・園の消耗品や教材は大切に使い、後で使う人が使い易いようにしている	62	38	0	0
・職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密は厳守している	85	15	0	0
・重要書類や個人情報にかかわる資料等は確実に保管している	84	16	0	0
・教材、教具の管理、点検に気を配っている	28	64	8	0
・ミスした内容については必ず上司に報告している	78	22	0	0
・提出物は期限内に提出している	54	42	4	0
・出勤時刻を厳守している	74	26	0	0
・教職員全員でひとつのチームであることを意識している	69	31	0	0
・他の意見を素直な気持ちで聞いたり、自分の意見を述べることができる	40	60	0	0
・クラス的环境構成などについてもお互いにフランクに意見を交換している	32	56	12	0
・当番や担当などの仕事の分担は責任をもって実行している	69	31	0	0
・教職員のプライバシーや園に関することをみだりに他へ話していない	89	11	0	0